

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2012 年 7-12 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

概ね回復が続いていたものの、足踏みの動きもみられていた業況であったが、経済政策の期待が高まるなか、回復の兆しが現れている。

- 2012 年 7-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 38%で前回調査（2012 年 1-6 月期 47%）より 9 ポイント改善している。また、「好転」とした企業は 6%で前回調査（4%）より 2 ポイント改善している。ともに前回調査より改善され、景況判断 DI は▲32 となり、前回調査（▲43）より 11 ポイント改善している。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲14 で、2012 年 1-6 月期から 11 ポイント改善
- ・処理量 DI は▲14 で、2012 年 1-6 月期から 10 ポイント改善
- ・契約単価 DI は▲13 で、2012 年 1-6 月期から 5 ポイント改善
- ・営業利益 DI は▲22 で、2012 年 1-6 月期と同水準
- ・資金繰り DI は▲8 で、2012 年 1-6 月期から 2 ポイント悪化
- ・借入難易度 DI は 1 で、2012 年 1-6 月期から 4 ポイント悪化
- ・設備投資 DI は▲15 で、2012 年 1-6 月期から 1 ポイント改善
- ・従業員数 DI は▲5 で、2012 年 1-6 月期から 2 ポイント悪化

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲22 となり、回復基調が続く見込みとなっている。
- 売上高の動向については、2012 年 7-9 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）7.5%増、2012 年 10-12 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）7.4%増となった。
- 処理量の動向については、2012 年 7-9 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）3.2%減、2012 年 10-12 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）11.9%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 4.95%（前回調査 4.91%）となった。回答割合は「5%未満」39.5%、「5-10%未満」16.6%、「10%以上」13.3%となった。
- 経営上の問題点については、1 位の「需要の停滞」、2 位の「同業者相互の価格競争の激化」、3 位の「顧客先からの値下げ要請」、4 位の「取引先の減少」合わせて、7 割と高い割合となっている。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

〔調査の要領〕

- 調査の対象：前回の調査（2008 年 10-12 月期）で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 25 年 1 月 10 日～2 月 25 日
- 回答企業数：480 社

